

平成28年度 津久見市学力向上施策

～つくみっ子の夢を育む！～



津久見市教育委員会

平成28年度 津久見市学力向上の取組

現状・課題

【平成27年度全国学力・学習状況調査】

- (小6) 算数A以外は全国平均を下回る。
- (中3) 全国平均を超える項目なし。

※特に記述するB問題において
低学力層の割合が極端に多い。

【平成27年度大分県学力定着状況調査】

- (小5) 国語(活用)・理科(知識)・理科(活用)が全国平均を下回る。
- (中2) 理科(活用)が全国平均を下回る。その他は全国平均と同じか上回る。

【平成27年度津久見市学力調査】

- (小1～6) 国語・算数ともにすべての学年・教科で全国平均を上回った。
(H26は5つの科目以外は全国平均以下。大幅に伸びている。)
- (中1～2) 中1国語のみ全国平均を下回った。その他は全国平均を上回る。

- 各種学力調査において、大きな学校間格差・学年間格差が見られる。津久見市全体として授業改善と学びに向かう力の育成が課題である。
- 各種学力調査において、全国平均に比べ下回っている教科が多い。
 - 思考力、判断力、表現力が十分に培われておらず、言語活動の充実が課題である。
- 読解力、要約力、情報分析力、課題解決力等に課題が見られ、活用型の問題を苦手としている児童生徒が多い。
- 学びに向かう力が身につけていない児童生徒が、少数だが大半の学校に見られる。意欲を喚起する授業構想や家庭学習力の育成が課題である。
- 小規模の学校が多く、校内における教科ごとの組織的な研究や協議が十分にできていない。

時代の急激かつ大きな変化とともに求められる学力の変化

➡ 授業改善

津久見市の統一した「組織的な学力向上の取組」の必要性！

つくみっ子の夢を育むための学力向上！

組織的な学力向上の取組

1. 学級づくり・学習規律の確立

- (1) **学級開きの取組** ➡ 生活規律・学習規律の確立
 - 「まちがうことは学習権」の価値観の徹底➡安心して発言のできる教室づくり
 - あたたかな関わり合い➡安心して学ぶことのできる学級づくり
- (2) **Q-U調査を活用した学級づくり**

2. 授業改善

- (1) 「津久見市授業力向上プロジェクト 2016」
 - プロジェクト [1] 【授業視察】
 - [2] 【学力向上推進PTの活用】
 - [3] 【学力向上に係る研修会】
 - [4] 【学びに向かう集団づくり】
 - [5] 【授業改善への挑戦】
- (2) 「新大分スタンダード」の徹底
 - [1] 1時間完結型➡「めあて・課題」と「振り返り・まとめ」の明確な位置づけ
 - [2] 板書の構造化➡板書とノートの一体化
 - [3] 習熟の程度に応じたきめ細かい指導の充実
 - [4] 問題解決的な展開の授業➡「生徒指導の3機能」を意識した授業

「生徒指導の3機能」

 - (1) 自己決定の場を与える
 - (2) 自己存在感を与える
 - (3) 共感的人間関係を育む

その時、その場でどのような行動が適切であるか自分で考えて、決めて、実行する能力を育む
- (3) **授業改善PDCAサイクルの確立**
 - 「授業改善5点セット」に基づく各校におけるPDCAサイクルの確立
 - 「授業視察」・「児童生徒による授業評価」に基づく各教科におけるPDCAサイクルの確立

3. 補充学習(基礎基本の定着・弱点補強)

- (1) 「**つまずきを次年度に持ち越さない補充学習**」の取組
 - 「津久見市学力調査」と連動させた基礎基本の定着・弱点補強の取組
 - 「全国学力・学習状況調査問題」を活用した授業の実施➡3回以上
- (2) **基礎基本の定着をはかる家庭学習の取組**
 - 授業と連動した課題
 - データベース等の活用
- (3) **放課後や長期休業中を活用した補充指導の取組**
 - 夏休み学力向上ステップアップ教室を小・中ともに5日間以上実施➡内容の工夫充実
 - 外部人材・講師の活用➡
 - ・「夏の学習クラブ」「春の学習クラブ」(算数数学4日間)
 - ・「放課後学習クラブ」(小学生希望者を対象・隔週水曜日)
 - ・「土曜寺子屋つくみ塾」(小学生を対象・月1回)実施

年間の取組の流れ

1 学期重点	取組内容
学級づくり・ 学習規律の 確立	<ul style="list-style-type: none"> ○学級開きの取組⇒生活規律・学習規律の確立 ○スタートカリキュラムの取組（小１・中１） ○「津久見市授業モデル」「共通指導事項」「授業改善プラン」周知徹底 ○各校における「学力向上プラン」「授業改善５点セット」の作成 ○児童会・生徒会を中心とした「学習目標」「学習規律」づくり ○Ｑ－Ｕ調査を活用した学級づくり（第１回６月実施） ○学力向上推進ＰＴによる公開授業① ○授業視察⇒各教科におけるＰＤＣＡサイクルの確立 ○「全国学力・学習状況調査問題」を活用した授業の実施 ○「問題解決的な展開の授業」への挑戦①
夏季休業中	<ul style="list-style-type: none"> ○第１回津久見市学力向上に係る研修会（市内全教職員参加） ○「夏休み学力向上ステップアップ教室」・「夏の学習クラブ」 ○基礎基本の定着・弱点補強を目指した適切な課題⇒点検・指導
2 学期重点	取組内容
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○学期開きの取組⇒児童会・生徒会を中心とした生活規律・学習規律の改善 ○「全国学力・学習状況調査」「大分県学力定着状況調査」結果分析⇒改善策 ○「授業改善５点セット」に基づく各校における ＰＤＣＡサイクルの検証改善 ○学力向上推進ＰＴによる公開授業② ○学力向上推進ＰＴによる各校校内研修への参加 ○授業視察⇒各教科におけるＰＤＣＡサイクルの実践 ○「問題解決的な展開の授業」への挑戦② ○Ｑ－Ｕ調査を活用した学級づくり（第２回１１月実施） ○「小中乗り入れ授業」（英語科⇒外国語活動） <div> <p>【日常的な授業改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆管理職の授業観察・互見授業等実践 ◆授業観察シートの活用 ◆「児童生徒による授業評価」に基づく各教科における ＰＤＣＡサイクル </div>
冬季休業中	<ul style="list-style-type: none"> ○第２回津久見市学力向上に係る研修会（市内全教職員参加） ○基礎基本の定着・弱点補強を目指した適切な課題⇒点検・指導
3 学期重点	取組内容
補充学習 （基礎基本の定着・弱点補強）	<ul style="list-style-type: none"> ○学期開きの取組⇒児童会・生徒会を中心とした生活規律・学習規律の検証改善 ○「津久見市学力調査」と連動させた基礎基本の定着・弱点補強の取組 ○「全国学力・学習状況調査問題」を活用した授業の実施 ○学力向上推進ＰＴによる公開授業③ ○学力向上推進ＰＴによる各校校内研修・指導案審議への参加 ○「問題解決的な展開の授業」への挑戦③ ○「つまづきを次年度に持ち越さない補充学習」⇒データベースの活用等

津久見市授業力向上プロジェクト 2016

～つくみっ子の夢を育む～

【プロジェクト1】【授業視察】

優れた授業実践に学ぶため、各部会全員で視察

○小学校国語⇒1～2学期

○小学校算数⇒1～2学期

○中学校数学⇒1～2学期

○中学校英語⇒1～2学期

※県の先進地視察に各部会から積極的に参加

【プロジェクト2】【学力向上推進PTの活用】

○算数・数学を中心に学力向上推進PTが「津久見市授業モデル」を作成・提示する。

○全教職員に周知徹底し、各校で実践する。

○「共通指導事項」「授業改善プラン」作成提示。

○各校校内研修・指導案審議に参加

○「指導案集」の作成

○「小中乗り入れ授業」⇒小学校外国語活動

【プロジェクト3】【学力向上に係る研修会】

○全教職員参加のもと、県又は教育事務所指導主事を招聘し、授業改善に係る講義を行う。

○第1回⇒各分科会（小学校学年別・中学校教科別）において、2学期実施単元の指導案作成・検討を行う。

○第2回⇒各分科会（ミドル層・若年層）において、意識改革及び授業力・生徒指導力向上の研修を行う。

【プロジェクト4】【学びに向かう集団づくり】

○学びの基盤となる学級づくり・仲間づくりの研修推進

○学習規律の確立⇒「共通指導事項」の徹底
「授業観察シート」の活用

【プロジェクト5】【授業改善への挑戦】

○「問題解決的な展開の授業」を全教職員が学期に1回以上行う。

- ◆新たな授業の視点
- ◆自己実践の振り返り
- ◆新たな気づき
- ◆意識改革
- ◆教科部会の活性化
- ◆各校において還流
- ◆全教職員に周知徹底
- ◆各校で実践
- ◆授業改善のPDCA

みんなで挑戦！
みんなで磨き合い！
みんなで学び合い！

授業力の向上

子どもたちの
「わかった」「できた」の
声が聞こえる授業へ

学力向上

子どもたちの夢に
向かう力

夢の実現へ

つくみっ子の夢を育む！

授業改善PDCAサイクルの確立

各校におけるPDCAサイクルの確立	各教科におけるPDCAサイクルの確立
<p>PLAN 「授業改善の5点セット」 授業改善テーマ・授業改善の重点 取組内容・取組指標・検証指標</p> <p>ACTION 成果と課題の分析 改善方策・計画の立案</p> <p>DO 取組内容・取組指標 に基づく実践</p> <p>CHECK 組指標・検証指標に基づく評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業視察・公開授業参観 →P 2. 授業視察・公開授業参観の学びから 「授業改善テーマ」設定 →P 3. 授業実践 →D 4. 授業観察指導・事後研究会 →C 自己の振り返り・改善策づくり →C 5. 「児童生徒による授業評価」 →C 市学力調査等分析 →C 低学力層への手立てなどの さらなる授業改善策 →A

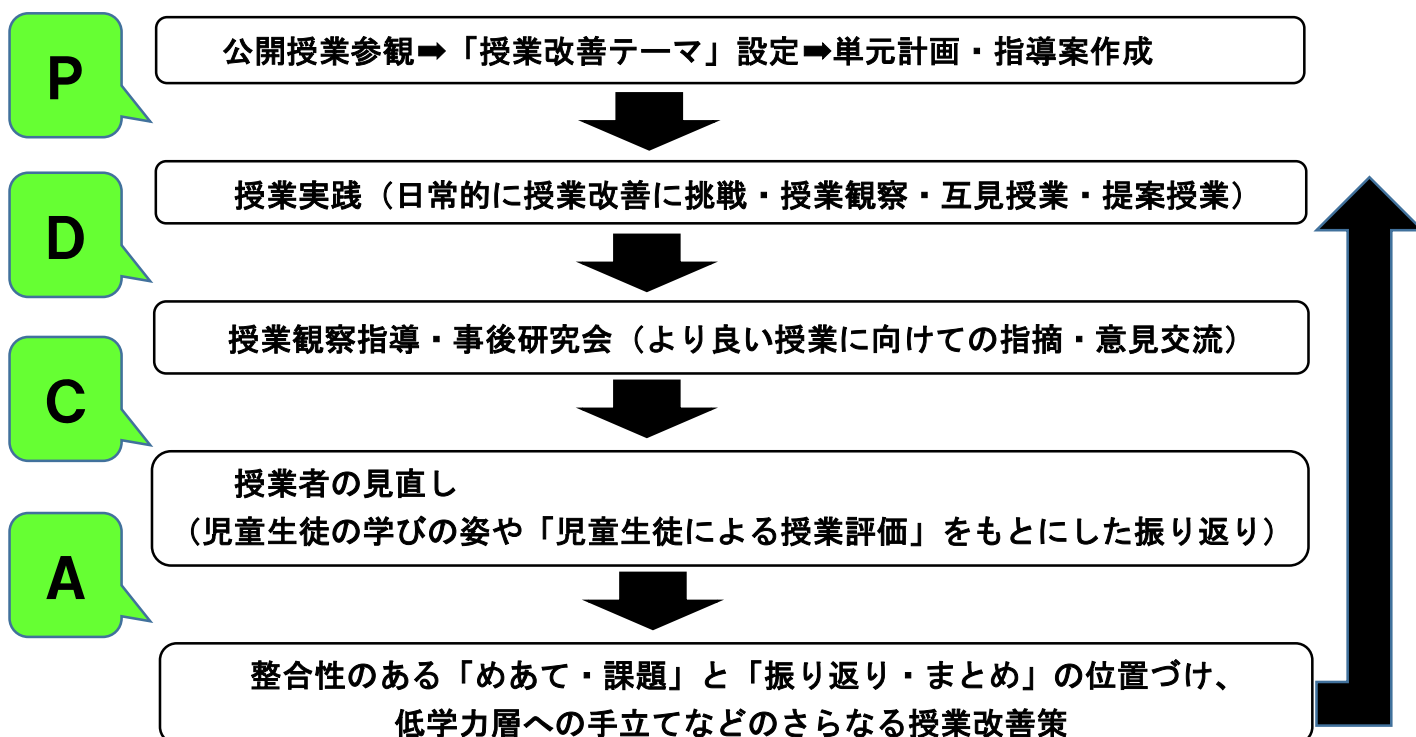
学力向上推進PT（プロジェクトチーム）

チーム構成	<p>○津久見市教育委員会学校教育課 課長・指導主事</p> <p>○学力向上支援教員（小学校国語） 青 江 小学校 鎌苅 二三 教諭 （小学校算数） 津久見 小学校 大野 光代 指導教諭</p> <p>○習熟度別指導教員（中学校数学） 第 二 中学校 三木 裕 教諭 （中学校英語） 第 一 中学校 足立 和寛 教諭</p>
ミッション	<p>○授業における児童生徒の知識の定着と活用力の育成を図るため、津久見市の教職員の授業改善に取り組む。</p> <p>○「新大分スタンダード」に基づく「問題解決的な展開の授業」「生徒指導の3機能を意識した授業」や、津久見市における「習熟度別授業」のモデル作成に取り組み、授業公開を通して市内に広める。</p> <p>○学校における補充学習及び家庭学習の支援に取り組む。（指導法工夫改善教員との協働）</p> <p>◆年3回授業公開を行う。</p> <p>◆算数・数学を中心に「津久見市授業モデル」を作成・提示する。 ⇒問題解決型の授業モデルを策定し、市内に発信する。</p> <p>◆「共通指導事項」「授業改善プラン」を作成・提示する。</p> <p>◆各校校内研修・指導案審議に参加⇒「新大分スタンダード」の徹底</p> <p>◆市学力向上に係る研修会各分科会（小学校学年別・中学校教科別）において、指導案作成・教材検討を行う。</p> <p>◆特に低学力層への手立ての工夫について研究し、市内に発信する。</p> <p>◆「小中乗り入れ授業」（小学校外国語活動を中心に） ⇒中学校の専門性や規律、小学校の丁寧さ関わりの深さを、互いに学び合いながら授業改善⇒小中一体教育の重要性をアナウンス</p>

学力向上推進PT授業公開の参加体制

	公開授業等
学力向上支援教員（小学校国語）	年 3 回（1 回は必ず拠点校の校内研修を兼ねて）（1 回は必ず訪問校において）
学力向上支援教員（小学校算数）	年 1 回 市学力向上研修会学年別分科会で指導案検討・作成
習熟度別指導教員（中学校数学）	年 3 回（1 回は必ず勤務校の校内研修を兼ねて）
習熟度別指導教員（中学校英語）	年 1 回 市学力向上研修会教科別分科会で教材・指導案検討

種 別	年間参加体制
小学校教諭（学力向上支援教員がいる学校）	自校参加＋他教科に計 2 回以上 （他校との合同校内研修開催等の工夫を通して）
小学校教諭（学力向上支援教員がいない学校）	小学校国語・算数・中学校数学・英語に計 2 回以上 ↓
中学校教諭（国語科教諭）	小学校国語＋中学校数学・英語に計 2 回以上
中学校教諭（数学科教諭）	小学校算数＋中学校数学に計 2 回以上
中学校教諭（英語科教諭）	中学校英語＋小学校国語・算数・中学校数学に計 2 回以上
中学校教諭（習熟度別指導教員がいる学校） （国語科・数学科・英語科以外の教諭）	自校参加＋小学校国語・算数・中学校他校の他教科に 計 2 回以上
中学校教諭（習熟度別指導教員がいない学校） （国語科・数学科・英語科以外の教諭）	小学校国語・算数・中学校数学・英語に計 2 回以上



※日々の授業にどうつないでいくかを大切に！⇒『指導案集』の作成・配布

学力向上推進PTより発信→各校で周知→実践

学びに向かう力を育むための共通指導事項

学習環境

- ☐ チリのない廊下や階段
- ☐ きれいな黒板
- ☐ UDを意識した教室前面
- ☐ 整頓された机とイス・ロッカー

学習規律

- ☐ チャイム開始
- ☐ 目と耳で聴く
- ☐ 話型を意識した話し方
- ☐ 学習用具の準備（授業に不必要なものは持ってこない）

学力向上指導

- ☐ 授業構成の確立「導入—展開—終末（確認テスト）」
- ☐ 板書の構造化「『めあて』と『振り返り』、『課題』と『まとめ』を板書に位置づけるプレートの利用
- ☐ 互見授業での授業観察シートの活用
- ☐ 生活（連絡）ノートへの記入の徹底（宿題の確認）

家庭学習

- ☐ 個に応じた課題（データベース等の活用）
- ☐ 家庭との連携強化



津久見市算数・数学「問題解決型」授業モデル

	教師の役割・動き	場	子どもの学びの姿(思考の流れ)	学習活動を支えるための留意点
課題成立まで	<p>① 子どもが問題を解決したくなるように導入の工夫をする</p> <p>※問題場面を理解しやすいように具体的に設定する。 ※前時に課題が生まれている場合は、課題確認から授業を始める ※前時の振り返りから本時の学習内容に入る場合は、何がわかっていて何がわからないのか明確にする</p> <p>② 既習事項と比較したり、考えの違いに目を向けさせたりして、困りや疑問を焦点化する</p> <p>③ <課題>を板書に位置づける</p> <p>※<課題>のプレートを貼り、赤線で文言をはさむ</p>	<p>意欲化の場</p> <p>自己決定</p> <p>自力解決の場</p>	<p>教材と出会い、解決に向けた願いをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうなっているのかな？ ・やってみたいかな？ <p>算数の世界に入る</p> <p>数や図、式で表せないかな？</p> <p>自分の考えを明らかにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aと思う・・・Bと思う・・・ ・あの考え方を使うと・・・ではないかな？あれ？できないよ ・わかっていることは〇〇、でも・・・△△がわからない <p>互いの考えの違いや疑問、困りが見え始め、課題に目を向ける</p> <p>数理的解決方法を探りだす</p> <p><課題>が位置づく</p> <p>どうすれば解決できるかな？</p> <p>解決に向けて考えをもち、自己表現する(数学的思考と表現)</p> <p>※ノート・ワークシート等で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを整理するために ・自分の考えをよりわかりやすくするために ・他の考えを理解するために <p>互いの考えを表現したり、理解したりしながら、考えの相違点や共通点から新たな見方・考え方を生み出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aの考えとBの考えの〇〇が同じだから、いつでも使える考えかも ・あんな考え方もあるんだ ・この考え方はわかりやすい <p>新たな見方・考え方を確かめる</p> <p>この方法や考え方でよいかな？</p> <p>新しい内容に関する数学的な考え方を発見・創造する</p> <p>学習内容を獲得する<まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったことは□□だ ・〇〇すれば、△△できるよ ・この考えは、いつでもどこでもつかえるよ <p>学んだことを習熟・活用する</p> <p>見つけたことわかったことが使えるかな？</p>	<p>○本時の到達像(まとめ・答え)を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが何と言えよいか ・どんな考え方ができればよいのか <p>○<まとめ>(答え)に対する<課題>(問い)の文言を準備しておく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「つぶやき」から課題が位置づくように <p>○本時の評価規準を決めておく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習で、つける力は何を考えておく <p>○本時の算数的活動(外的活動・内的活動・表現活動)の目的を考えておく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到達像に向けてすべき数学的活動は何を考えておく ・その活動をすることで何を捉えさせるのか？何に目を向けさせるのか？どんな数学的思考力をつけたいのか？
課題解決まで	<p>④ 考えを持たせる</p> <p>※ワークシート等を用意し、数学的表現方法を習得させていく ※全体状況や個に応じて、ヒントとなる教具やプリントを与える ※ペアで考えを聞き合わせ自分の考えに自信を持たせる</p> <p>⑤ 考えを説明させ、理解させる(言語活動)</p> <p>※出された考えを他児に説明にさせることで、理解力・説明力をつけていく ※子どもが発見したように、本時に身につけさせたい学習内容を確認していく</p> <p>⑥ 子どもの考えを板書にまとめ、本時の学習内容をまとめていく</p> <p>※<まとめ>のプレートを貼り、赤線で文言を囲む</p> <p>⑦ 習得した学習内容を習熟・活用させる</p> <p>※復習プリントやドリルで学習内容の定着を図る ※次時の学習に既習事項を活用するようにする ※日常生活に学習したことを活用させる</p>	<p>自己存在感を与える場</p> <p>共感的人間関係を育む場</p>	<p>解決に向けて考えをもち、自己表現する(数学的思考と表現)</p> <p>※ノート・ワークシート等で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを整理するために ・自分の考えをよりわかりやすくするために ・他の考えを理解するために <p>互いの考えを表現したり、理解したりしながら、考えの相違点や共通点から新たな見方・考え方を生み出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aの考えとBの考えの〇〇が同じだから、いつでも使える考えかも ・あんな考え方もあるんだ ・この考え方はわかりやすい <p>新たな見方・考え方を確かめる</p> <p>この方法や考え方でよいかな？</p> <p>新しい内容に関する数学的な考え方を発見・創造する</p> <p>学習内容を獲得する<まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったことは□□だ ・〇〇すれば、△△できるよ ・この考えは、いつでもどこでもつかえるよ <p>学んだことを習熟・活用する</p> <p>見つけたことわかったことが使えるかな？</p>	<p>○数学的表現力(式、図、表、グラフ、言葉)をつけていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを整理するため ・他者によりよく伝えるための表現の工夫ため ・他の表現をよく理解するため <p>○子どもの考えを、比較したり確かめたりすることが出来るように、板書や教具の提示のしかたを工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に捉えやすいように書画カメラやタブレット(ICT機器)を活用する ・考えの筋道がわかるような矢印や色分け、吹き出し等を用いる <p>○学習内容は、教師が教え込むのではなく子どもが自ら発見した喜びを感じるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体となるように、言葉を投げかけたり、問いかけたりして、子どものつぶやきが生まれる教室の空気を作るように心がける。

津久見市版「新大分スタンダード」に基づく授業観察シート

津久見市版 「新大分スタンダード」に基づく授業観察シート



日時	月	日	限	授業者名	学年 学級	年	組	教科等		記載者名	
				観察項目	観点例				力点	備考（参観者が気づいたことを記入）	
授業 構 想	①	教材研究	付けたい力を付ける方法や（学習活動）教材の解釈が適切である。	・設定した学習活動を行えば確実に設定されている付けたい力が付くか。 ・指導内容や教材の解釈は的確か。 ・時間配分は適切か。							
	②	評価規準	付けたい力に合った評価規準を設定している。	・単位時間に①評価する場面や②評価規準が設定されているか。 ・ねらいに応じた適切な評価規準が具体的な児童生徒の姿で設定されているか。							
	③	問題解決的な展開	教科の特性に応じた問題解決的な展開である。	・問題解決的な展開のプロセスが指導者に意識されているか。							
導入	④	めあて課題	「課題・めあて」を適切かつ明確に位置づけている。	・児童生徒が学習の見通しをもち、主体的に取り組めるか。 ・本時のねらいに迫る適切な課題が示されているか。 ・児童生徒が意欲的に取り組む必然性や工夫があるか。							
展 開	⑤	自己決定	児童生徒が自分なりの考えをもつことができている。	・自分なりの考えをもつ時間を適切に設定しているか。 ・考えをもつために必要な既習事項や学習用語の確認は適切に行われているか。 ・考えをもつことができる補助発問や学習の手引き、ワークシート等が適切か。							
	⑥	共感的な人間関係	交流活動等を通して児童生徒が自分の考えを深化・拡充できている。	・ペア学習・グループ学習・一斉学習等、協働的な学びにより、互いの考えを認め合ったり、自分の考えを深化・拡充したりする場が設定されているか。 ・多様な考えを整理・分析・深化する手立てが適切であるか。 （ヒントの提示、思考類型の提示、思考ツールの活用等）							
	⑦	自己存在感	児童生徒が自分なりに考えをまとめ、表現している。	・自分の考えを発表したり、説明したり、記録したりする場が設定されているか。							
	⑧	板書の構造化	児童生徒の思考を助けたり、深めたりするのに適した板書である。	・思考の流れに沿って整理されているか。 ・文字の大きさ、配置、色分け、筆順等は適切か。							
	⑨	習熟の程度に応じた指導	習熟の程度に応じて、適切な支援をしている。	・児童生徒の質問や要望に対して適切な対応をしているか。 ・「C 努力を要する状況」の児童生徒への支援ができているか。							
終末	⑩	まとめ 振り返り	課題に呼応した適切なまとめができている。 本時の振り返りの視点がめあてに対して適切である。	・学習用語を適切に使用し、課題に対し、適切にまとめているか。 ・学んだことを家庭学習につなぐ課題や宿題を示しているか。 ・児童生徒が本時で習得した学びや学び方を振り返ることができる内容か。 ・振り返りは学びに向かう力を育む内容になっているか。							
共通 実践	⑪	取組内容	*学校で設定した授業改善5点セットの「取組内容」	*児童生徒や授業者の具体的な状況							
	⑫	学習規律	学びの基盤となる、学習規律の確立ができている。	*学びに向かう姿勢・仲間との関わり・学習用具の扱い・発表方法等、児童生徒や授業者の具体的な状況							

○授業改善のための「授業観察シート」です。
授業の振り返りや互見授業等の視点として活用して下さい。
*いつも全ての項目についてチェックするのではなく、授業観察の時間や目的、各学校の授業改善の「取組内容」や教員・児童生徒の実態に応じて、観察する項目を絞り込みましょう。
＜使い方＞ ①授業者は、本時の教科・単元名・題目・展開・特に力を入れる「力点」に○をして授業をします。
②参観者（学力向上支援教員等）は、備考欄に気づいたことを記入します。
③授業者と参観者は授業についての意見交換を行います。（力点を中心に）

【授業を見て一言】



児童生徒による授業評価

児童生徒による授業評価の項目は、「授業者に対して」「児童生徒自身に対して」「学習集団に対して」の3つに分類できます。津久見市では、児童生徒や学校の実態に応じてこれらを組み合わせたものを実施していきます。

【児童生徒による授業評価項目例】

○授業者についての評価

- ◆授業のめあてがはっきりしていた。
- ◆先生の説明はわかりやすかった。
- ◆授業の内容が、分かりやすく黒板に書かれていた。 など

○児童生徒自身についての評価

- ◆学習内容が理解できた。
- ◆先生や友達の説明をしっかりと聞くことができた。 など

○学習集団についての評価

- ◆班で協力して〇〇することができた。
- ◆お互いの意見をしっかりと聞き、話し合いを進めることができた。 など

小学校高学年（５・６年）における授業交換による 教科担任制実施に向けて

～複数の教員に関わり、児童一人一人に確かな学力を～

【実施上の留意点】

津久見市教育委員会では、次に示すような効果を期待し、平成 28 年度から平成 30 年度にかけて三
か年計画で、**授業交換による教科担任制の実施・確立**を目指します。（津久見スタイル）

- 学年に複数の学級がある高学年（５・６年）において、すべての教科のうち２教科以上で授業交換（国語・社会・算数・理科・外国語活動の５教科のいずれかを可能な限りいれて）を行う。
- 年間を通して、計画的に実施する。
- 複数の教科の指導力を高めるため、可能な限り学期等で担当教科を交代・変更するなどの工夫を行う。

【期待される効果】

○教材研究の充実による、よりよい授業の実現

担当する教科の研究や準備に多くの時間をあてることができるため、授業の質が高まるとともに、１つの指導案で複数回の授業を行うことで、教員の授業力の向上が期待できます。

○複数の教員による多面的な児童理解に基づく組織的な指導の充実

より多くの教員が児童に関わることにより、児童のよさや課題を多面的な視点からとらえることができるため、一人一人に応じた学習・生徒指導が期待できます。

○組織力の強化

必然的に連携の機会が多くなり、教員の連携が強まり、組織力の向上が期待できます。

○中学校の授業形態へのスムーズな移行（中１ギャップの解消）

教科担任制を小学校で体験することにより、中学校進学後も教科担任制へのスムーズな移行が期待できます。

※単学級の学年においても、隣学年同士で授業交換をするなど、２学年にまたがって教科を担当することにより、児童の人間関係や学習経験が広がり、教科の系統性を意識した教材研究や学習指導の充実が期待できます。

【授業交換例】

	国語	算数	社会	理科	家庭	体育
６年１組 （Ａ）	A	B	A	A	A	A
６年２組 （Ｂ）	A	B	B	B	B	B

※国語、算数で交換授業（社会、理科の交換授業も可能）